

個性

「一人一人に良さがある!」

こんなことありませんか？

小学校4年生のたろうさん。春のお祭りが近づいたある日、親子で参加する子ども会の花みこし作りが行われました。上級生の指示で、花紙でおみこしを飾る花を作り始めたたろうさん、一生懸命作るのですが、細かい作業が得意でないため、なかなかきれいに作れません。

たろうさんの作った花を見たおさむさんが、「へたくそだなあ。もっときれいに作ってよ。」と不満げにつぶやきました。それを聞いたたろうさんは、手を止め、涙ぐんでしまいました。



ワーク1

たろうさんとおさむさんの友人の保護者として、その様子を傍で見ていたあなたはどのようにしますか。

.....

.....

.....

.....



ワークシート2

ワーク2

お子さんが、一生懸命取り組んでも結果が出せない友人を見下す態度をとったら、親としてどんな話をしますか。



◇他の方の意見をメモしましょう◇



いいね!



いいね!

今日気が付いたこと、わが家でもやってみようと思ったことは何でしたか？



今日からぜひやってみてくださいね。お疲れ様でした。



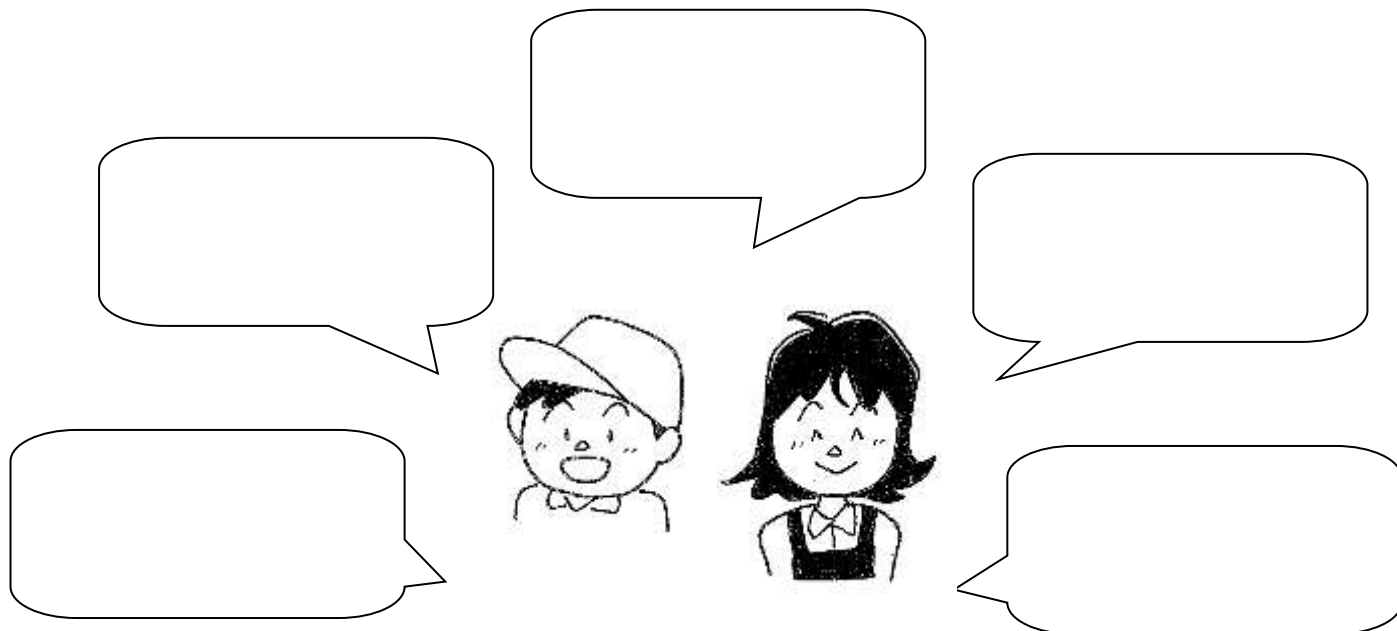
一人一人違う人間なのだから、同じようにやってもできる子もいればできない子もいる。できないことをばかにしたり、それを原因に差別をしたりするような子には育てたくないものだ。

他人のよさを見つけ、お互いのよさを生かすような関係を築かせたいものだね。

実践カード

わが子の個性発見!

■わが子のよいところや得意なことを書き出してみましょう。



■お子さんのよさを更に伸ばすために、親として心がけたいことを宣言カードに書いて取り組んでみましょう。(例:ありがとうをたくさん言うよ! 毎日よいところを見つけて伝えます!)

◇私の心がけ宣言

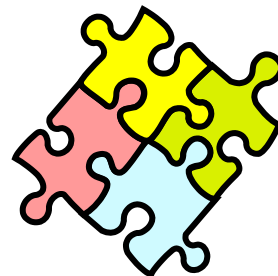
◇ふりかえりをしましょう。(◎できた! ○まあまあできた! △残念あと一歩!)

月/日	/	/	/	/	/

[取組を通して感じたこと・感想]

「違うからこそすばらしい」と堂々と言える親に

この世に同じ人間はいません。一人一人考え方も性格も違って当たり前で、その違いがあるからこそ互いに学び合い、成長できるのです。わが子が、自分と違うからという理由で誰かを見下したり、責めたりしたら、親としてその言動を戒め、正しい考え方を教えましょう。



どうすれば子どもに伝わるの？



何気ない時に

一生懸命のすばらしさを教える

結果にとらわれず、精一杯取り組む姿の価値を、折に触れ話しましょう。物事を表面だけで判断しない目を育てましょう。

どんな人にもよさがあると語る

家族や周囲の人の良さを見つけて話しましょう。もちろんわが子に対しても。子どももまねて他人のよさを見つめるようになります。



日常の中で



よくない言動には

毅然と叱る

自分と違うという理由で人を傷つけるような言動をした場合は、厳しく叱りましょう。叱った後に何がよくなかったのか、どうすればよいのか、子どもが納得するまで話しましょう。

特別な支援が必要な子どもがいます

家庭や学校で、「コミュニケーションがうまくいかない」、「いつまでも落ち着きがない」、「漢字が覚えられない」、「社会的なルールがわからない」など、年齢にふさわしくない行動や様子が見られる場合、あるいは、学校嫌いや引きこもりの状態がある場合、LD・ADHD・[※]高機能自閉症等の発達障害がその理由の一つかもしれません。これらは生まれつきのものであり、子育ての仕方による原因があるわけではありません。

発達や行動について心配があったら、一人で悩まず、できるだけ早く学校や地域の発達相談の窓口にご相談してみるとよいでしょう。専門的なアドバイスを受けて、効果的な働きかけをすることによって、その子の困っている状態の改善が期待されます。

なお、国においても、一般国民や教育関係者に対し発達障害について正しい理解啓発や支援の充実を図るため、発達障害に関する相談窓口や各種教育情報を提供するWEBサイトを設けていますので、ごらんください。

※自閉スペクトラム症

出典：家庭教育手帳 小学生(高学年)～中学生編(イキイキ子育て)

(文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/2006_techou/mokuji.htm)



<相談・情報提供窓口>

○岐阜県発達障害者支援センター 来所予約・相談専用ダイヤル:058-233-5106

〒502-0854 岐阜市鷺山向井 2563-18 <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/20822.html>

各圏域で発達障がい支援センターが開設されています

- ・岐阜圏域：岐阜県発達障害者支援センター(岐阜県障がい者総合相談センター内) 電話番号:058-233-5106
- ・西濃圏域：西濃圏域発達障がい支援センター
〒503-0801 大垣市和合新町 1-15 中村第3ビル 302 電話番号:0584-84-8350
- ・中濃圏域：中濃圏域発達障がい支援センター
〒501-3938 関市桐ヶ丘 3-2(ひまわりの丘地域生活支援センター内) 電話番号:0575-23-2551
- ・東濃圏域：東濃圏域発達障がい支援センター
〒509-5122 土岐市土岐津町土岐口 2087-1ドリームマウンテン1階C号 電話番号:0572-54-4230
- ・飛騨圏域：飛騨圏域発達障がい支援センターそらいろ
〒506-0058 高山市山田町 831-43 電話番号:0577-35-6780

<情報提供窓口>



○発達障害情報・支援センター <http://www.rehab.go.jp/ddis/>

○発達障害教育推進センター(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所) <http://cpedd.nise.go.jp/>

進行案

ねらい

- 人はそれぞれ違うことを理解し、お互いのよさを認め合い、周りの人とよい関係を築く方法について話し合しましょう。

時間	進め方	留意点
10分	<p>はじめのことば</p> <p>「みなさん、こんにちは。本日は参加いただきありがとうございます。今日は『個性』について考えましょう。」</p> <p>アイスブレイク</p> <p>「最初にみなさんで簡単なゲームを楽しみましょう。では、やり方を説明します。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆グループ内で順番に自己紹介をする。 ◆自己紹介に「実は…」で始まる文を必ず入れる。 	<p>◇笑顔で親しみやすい言動を心がける。</p> <p>小道具として「お茶」やちょっとした「お菓子」があると、やわらかい雰囲気を演出し、話も弾みやすくなる。</p>  <p>◇「7 アイスブレイク①」参照。</p>
30分	<p>3つの約束の確認</p> <p>「では、これから活動に入りますが、その中でみなさんに守ってほしい約束が3つあります。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆3つの約束を確認する。 <p>ワークショップ</p> <p>「まず、ワークシートをご覧ください。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「こんなことはありませんか?」を読む。 <p><ワーク1></p> <p>「では、あなたがその場に居合わせたら、どうしますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ワークシートに考えをメモし、交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命やっている人を責めるのはよくないとおおむさんを叱る。 ・たろうさんを落ち着かせて戻す。 ・たろうさんが得意そうな仕事を与える。 <p><ワーク2></p> <p>「一生懸命取り組んでもできない友人を見下すお子さんにどんな話をしますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ワークシートに考えをメモし、交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・本人の苦手なことを例に、自分が逆の立場だったらどんな気持ちになるか想像させる。 ・差別につながる行為で人として恥ずかしいことだと話す。 ・人はそれぞれ違うからこそよいと話す。 	 <p>◇「3 3つの約束」参照。</p> <p>◇家庭内の話題も出るため、信頼関係が大切であることを理解してもらう。</p> <p>◇「5 進行役について(1)子育てサロン型」参照。</p>
20分	<p>振り返り</p> <p>「今日の話し合いを聞いて、よいと思ったこと、やってみようと思ったことは何ですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ワークシートに考えをメモし、交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・普段から親が、子どもに対して、結果ではなく努力を認める言葉をかける。 <p>「いろいろな意見の中には、今日からいかせそうなヒントがありました。私は○○さんの△△という意見がなるほどと思いました。話し合うことで気持ちが軽くなった方もいらっしゃるでしょう。これからも積極的にこうした機会を活用してください。実践カードを使って家庭でもチャレンジしてみましょう。」</p>	<p>◇ワークシートにメモする時間がなければ、そのまま交流に入ってもよい。</p> <p>◇参加者が話しやすくなるよう、進行役が最初に困っていることや悩んでいることを話すもよい。</p> <p>◇時間配分を考え、全員に話す機会を与える。</p> <p>◇代表で1~2人に話してもらう。</p> <p>◇時間があれば、資料2、3を配布し、読む。</p> <p>◇進行役が参加者と同じ目線で「こんなヒントをもらった」という話ができるとよい。</p> <p>◇資料1を配り、各家庭での実践を促す。</p>